

建設の基本設計完成

『八火図書館・宮原振興局』が生まれ変わります

八火図書館の老朽化に対する不安は、旧町時代からの課題であり、建物の整備などについて検討委員会で協議が重ねられてきました。この結果、現在の宮原振興局を解体し、図書館と振興局機能を併せ持った新しい複合施設を建設することとなりました。このほど施設の基本設計が完成しましたので、その概要をお知らせします。



【正面】



【東側】

※基本設計イメージですので、実施設計にて若干の変更がある場合があります。

デザインコンセプト

① 学校図書館などの中心となる「HUB図書館」

氷川町には、氷川中・竜北中・宮原小・竜北東小・竜北西部小の5つの学校があります。この5つの学校と竜北歴史資料館を含め、図書ネットワークなど連携を図っていきます。これらの学校図書館の核となり、先頭となるべく整備を行い、蔵書数も現在以上の確保を目標とします。

② 文化の拠点として、お年寄りから子どもまで集まれる「にぎわいの場」

本計画地は、現宮原振興局がある場所であるため宮原地区の中心地となります。現宮原振興局を解体し、図書館と新たな庁舎を建設し、世代を越えた交流の行える「にぎわいの場」を作ります。

③ 「まちづくり拠点地域」の中心となる外観

この地域は「まちづくり酒屋」や「まちづくり情報銀行」に代表される氷川町のまちづくり拠点地域になっています。また、周辺は水路や公園もあり、水と緑にあふれ、古い建築物と自然が交錯するこの場所に存在感を持つ建物を建築します。

④ 「白」と「黒」街並みになじむ色彩

敷地周辺になじむ色彩として、建物の内観・外観に「白」と「黒」を採用し、重厚感を出すとともに、周辺の緑との調和を図ります。「黒」は、屋根の瓦や木材を着色した外壁など、「白」は外壁や内壁の塗装などに使用していきます。

⑤ 「八火図書館」の歴史を継承

「八火図書館」と命名されているとおり、電通創始者である光永星郎氏（八火先生）の文化的な貢献は後世に伝えていくべきものです。八火図書館という歴史を残し、光永氏の功績を顕

彰するスペースを建物内に設け、町民に周知していきます。

平成27年4月供用開始予定

施設の新築、旧議会棟改修、受電施設改修などこれから詳細な設計を行います。約4億円の費用を見込んでいます。合併特例債などを活用します。町の実質負担は、約1億円と見込んでいます。

工事期間中は振興局機能をまちづくり情報銀行へ

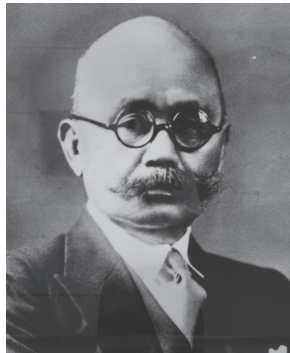
平成26年2月（予定）には、現在の宮原振興局本館の解体作業に着工します。作業前から

旧議会棟を活用

宮原振興局南側にある旧議会棟は、現在、空き家状態ですが、緊急時の備蓄倉庫や書庫、防災無線の無線室など宮原地区における防災の拠点として活用します。また、2階部分は商工観光課の執務室としても使用します。

■建物概要（新築部分）

- 住所：氷川町宮原栄久69番地1
- 延床面積：772.65㎡
- 構造：鉄骨造 平屋建て
- 構成：八火図書館と宮原振興局の複合施設
- 駐車場：31台（うち身障者用1台）
- ※現在利用している宮原振興局の本館と旧議会棟について、旧議会棟は残し、本館のみを図書館を含んだ複合施設として建て替えを行います。



◀光永星郎氏

八火図書館は、電通より創立70周年記念事業の一つとして昭和48年に寄贈されました。星郎氏の雅号「八火」にちなんで八火会館と名づけられ、のちに八火図書館となりました。



▲老朽化が課題となっている現八火図書館

■今後のスケジュール（予定）

年 月	内 容
平成 25 年 6 月 7 月	新築に伴う実施設計発注 旧議会棟改修工事着工
平成 26 年 1 月 2 月 7 月	宮原振興局機能をまちづくり 情報銀行へ仮移転 現宮原振興局庁舎解体工事着工 複合施設新築工事着工
平成 27 年 2 月 4 月 6 月	図書館・振興局を移転 新施設供用開始 現八火図書館解体工事着工

※現八火図書館解体後は、宮原福祉センター駐車場として利用予定です。